

三十五年の節目を迎えて

■ 日 高 紘一郎 ■
(学校法人別府大学 理事長)

芸術文化学科は、平成二十年をもって創設三十五周年を迎えました。同学科がこれまで永きにわたり発展してまいりましたのは、学生や教職員が力を合わせて学び研鑽してきた日々の積み重ねの結果であり、また、温かく見守ってくださった地域の皆様方のご理解とご支援によるものであります。学園を代表する者として、関係者の皆様にあらためて感謝を申し上げます。

芸術文化学科の前身である美学美術史学科がスタートしたのは昭和四十八年でした。美術の創作技術とともに、美学・美術史などの美術理論を総合的に学ぶ、九州・四国地方に類例のない先進的でユニークな学科の誕生でした。しかし、学科の設置計画自体は更に古く、史学科と並んで昭和三十八年には構想されていたといえます。思うに、芸術を深く愛し研究された学園創設者・佐藤義詮氏の志の中には、芸術系学科を設置したいという願いが相当早くからあったのでしよう。いうまでもなく芸術の創造は人間の自由な精神活動に由来します。その意味で、芸術文化学科は、文学部の四男坊ながら、本学の建学の精神「真理は我らに自由にする」に深く結びついた、いかにも別府大学らしい学科であるといえることができるでしょう。

設置後の経緯を簡単に振り返ると、昭和五十二年度からは、実技コースと理論コースの二コース制が採用され、より専門性を深める体制が明確にされました。発足時に三十名の定員を大きく下回った学生数も、この頃には定員を上回るようになり、教授陣・教育課程ともに内容の充実した学科へと成長しました。さらに、平成十二年度には、新たに視覚伝達デザインコースを開設し、現代社会においてますます重要となるグラフィックデザインや広告表現を専門的に学ぶ環境が整えられました。また、このときに学科の名称が美学美術史学科から芸術文化学科へと変更されました。平成十六年度には、マンガ・アニメーションコースを開設し、マンガ・アニメーション制作の第一線で活躍してきた専門家から、動画表現、脚本・編集、コンピュータを駆使したアニメ制作等について、その理論と実践を学ぶ場を整備しました。

現在、芸術文化学科は、開設から三十五年の歴史を経て、芸術・美術史コース、絵画表現コース、視覚伝達デザインコース、マンガ・アニメーションコースの四コースを備えるに至っています。

そして、平成二十一年度からは、文学部の再編の中で、

芸術文化学科は国際言語・文化学科の芸術コースとして生まれ変わり、カリキュラムにおいても書道、絵画、デザイン、マンガ・アニメーションの各分野の垣根を低くし、学生の興味に応じて柔軟に履修できる体制へと改革を図る予定です。もちろん本学の伝統である少人数教育は、新たな国際言語・文化学科においても守られ、さらに徹底されま

す。小さな大学の利点を活かし、学生と教員の濃密な交流を実現し、学生の個性を重んじた、きめ細かな教育を実践してまいります。

我が国が、そして九州・大分県が、真に豊かな国と呼ばれるためには、芸術文化の発展が欠かせません。本学科の活動がその一翼を担うよう、建学の精神を胸に、これまで培ってきた伝統を受け継ぎつつ、教育研究に精進してまいります。今後とも、皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。